

## 第5期夢育て・たちかわ子ども21プラン推進会議 要旨

会議名	夢育て・たちかわ子ども21プラン推進会議(第9回)
日時	令和6年10月25日(水)18時30分~20時30分
出席	金子恵、中嶋弥生、大橋暉弘、神田恭司、永田ゆかり、樋口睦子、土方崇、秋山俊、平野静香、米原立将、小松佳世子、佐藤米子、水城優子、山中ゆう子、安部希美、大口泰朗、坂下香澄、鉤賢太郎、飯野心咲、末平乙綺、松村咲(委員名簿記載順・敬称略) [事務局]矢ノロ子ども家庭部長、平川子育て推進課長、井田子育て推進係長、高野子育て推進係 守屋子ども家庭支援センター長、小川子ども育成課長、加藤保育課長、江頭保育振興担当課長、鈴木健康推進課長 [株式会社地域計画連合]柳坪、青野
欠席	小畑くるみ、千頭和正巳、景山千鶴子、北島宏晃、伊東祐也、佐藤蓮太郎、(委員名簿記載順・敬称略)
配布資料	(1)R6 立川市青少年健全育成市民行動方針(子ども育成課)【資料1】 (2)第5章 教育・保育等の量の見込みと確保方策(案)【資料2-1】 (3)立川市様式(骨子案)【資料2-2】 (4)コラム グループワーク用資料
会議場所	立川市役所 302 会議室
<p><b>1.立川市青少年健全育成市民行動方針の改定について</b></p> <p>・事務局より、資料1に基づき、現行の行動方針から内容を改定する趣旨について説明。また改定案については、12月19日の推進会議の時にご意見をいただきたい旨のお願いをした。</p> <p><b>2. 第5次夢育て・たちかわ子ども21プラン策定について</b></p> <p><b>2-1. 教育・保育等の量の見込みと確保方策(子ども・子育て支援事業計画)について(現プラン第5章)</b></p> <p>(1)事務局より、資料2-1に基づき、「第1節 教育・保育提供区域の設定」、「第2節 幼児期の教育・保育の量の見込みと確保方策」、「第3節 地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策」、「第4節 幼児期の教育・保育の一体的提供及び推進体制の確保」の順に、現時点での各課調査の結果を示し、主に第4次プランからの変更点について説明した。</p> <p>(2)委員からの主な意見は以下のとおり。</p> <p>・量の見込みと確保方策は、市区町村の作成義務となっているもの。人口推計を見ると、例えば0歳はどんどん増え、令和11年度は1,323人になっており、令和7年度に比べ50人ぐらい増えると予測されている。これは、社会動態として子育て世帯が立川市に移ってくることを考えていることかと思う。</p> <p>第2節の保育の量の見込みとは、将来的にこのぐらいの子どもがいて、どれぐらい保育を利用するのかを見込んでいる。3~5歳児の見込みを見て不思議だなと思ったのは、子どもの数の推計は増えていくはずなのに、量の見込みは減っている。</p> <p>第3節の地域子ども・子育て支援事業の量の見込みは、国が予算をつけ、子育て支援関係の事業を進めること。十数個の事業が、国の制度に基づいて載っている。産後ケア事業など新たに加わった事業は、数字や内容に関して今回はまだできていないというのが事務局からの説明だった。見方としては、例えば[12]実費徴収に係る補足給付を行う事業の記載について、令和2年度から5年度まで</p>	

増えているが、令和7年度から11年度は1,800で高止まりしている記載になっているのは、どうしてなのか。このように興味ある箇所をそれぞれ確認していただければよい。

## 2-2. 立川市様式(骨子案)について

(1) 事務局より、資料2-2に基づき、第5次夢育て・たちかわ子ども21プラン骨子案を示し、基本的な視点、施策目標、項目、取組の方向性について、主に第4次プランからの変更点を説明した。

(2) 委員からの主な意見は以下のとおり。

・Q 施策目標1、項目1、取組の方向性4、「子どもの意見表明・意見反映の機会創出」は、「子どもの意見表明・参加の機会の創出」を「意見反映」に変更したと説明があったが、「参加」にはもともとどのような意図があったか確認してほしい。「参加」、「参画」は、こども家庭庁の文書でも多々出てくる文言のため、社会に参加する、社会に参画するという意味も含んでいるのかと思った。

・A 国の文書では、「参画」の方が多く使用されている。また、立川では第4次プランの前の第3次プランで「参加」という文言を使っている。過去を遡ると、まずは一旦参加するというのが目標になっていると感じる。ただ、今はどちらかという子どもの意見を反映することが重点になってきているため、あえて「参画」ではなく、「意見反映」の記載にした。

・そういう意味では、「意見反映」はとても分かりやすい表現である。ただ、意見を表明するとか反映させる部分に加えて、一緒に政策を作っていくとか、何かを作っていくプロセスに参加や参画する部分も重要とされていて、参加や参画のほうが伝わりやすい部分もあると感じた。でも、事務局の意図は理解した。

・Q 施策目標3の「ひとりひとりに応じた学びの場づくりを支援します」というところで、項目1の「生きる力を育む教育の推進」、取組の方向性1の「子どもの意欲を大切にした学校教育の推進」とあるが、学校教育という観点で、学校教育振興基本計画検討委員会の会議との整合性はとれているのか。

・A 学校教育振興基本計画の担当部署には、本日の推進会議と後日行われる庁内検討委員会で諮るこの骨子案を、資料として提供している。逆に担当部署からは、学校教育振興基本計画の素案の案について提供していただき情報を共有している。

## 3. 第5次プランで掲載するコラムの検討について

(1) 事務局より、グループワーク用資料に基づき説明。これまでの推進会議でのご意見を書き留めた模造紙を見ながらどんな意見が出ていたかをグループごとで振り返り、コラムのテーマにしたい内容を検討して付箋に書き出していただく。それをもとに次回11月13日の推進会議で、コラム執筆者を決める予定。

(2) 4班に分かれ、グループワーク。委員の主な意見交換結果は以下のとおり。

### 【グループ1】

・新しい委員が2名いるため、会議に参加した感想の共有から意見交換を始めた。以前から継続して就任している子ども委員が、自分の2~3歳年下の子ども委員の発言にジェネレーションギャップを感じるという話があり驚いた。また、子どもプランの認知度が低く、必要な人に届いていないことが残念という意見があった。

・基本的な視点を大きく書き換えたことについて、前プランは書いている人の価値観、思想、主観が強く、大人から押し付けるような目線を感じるなど、新しい委員の方が意見を出したことで、今まで気が付かなかったことに気付かされたことはすごく良かったという意見もあった。

・本日の会議の次第1で説明があった「青少年健全育成」という文言も気になるという話や、市のホーム

ページが新しくなったが、複雑で迷子になるため改善してほしい、という意見もあった。

・コラムとしては、学校と子どもの権利についての内容が主に意見としてあがった。学校に関しては、いじめによる自殺の増加が課題としてあがり、当事者側からの観点や自分と同じ年齢の子が自殺してしまうのがつらいという観点からも、自殺を防止したいという話になった。また、学校の中の先生・教育側からの観点では、学校としてのあり方としてどんな学校だったら良いか、という話があがった。また、スクールカウンセラーについても意見があがり、なかなか予約が取りづらく、相談したい時に相談できないという話があった。

・子どもの気持ちを聞く機会を増やす、あるいは聞いてくれる人を増やすという改善策の話もあった。子どもの権利については、子どもの権利を大人が正しく理解していないのではないか、90年代からアップデートされていないのではないか、という指摘があった。他に、子どもの遊びは大事で、プレーパークなど民間で頑張っている取組もあるが、もう少し何かできることはないかという意見がでた。

### 【グループ2】

・学校で行われている英語の授業の進め方について、日頃思っていることがある。英語の授業なのにほぼ日本語で行われているが、もう少し英語に触れた方が英語を話せる生徒や理解できる生徒が増えると思う。また、放課後に勉強できる場所があまりない。勉強会を友達と一緒にするのだが、友達と一緒にだとしても騒ぐことがあり、図書館では静かにするよう注意を受けてしまう。それでカフェに行くようにしているが、カフェだとお金がかかるので中学生には厳しい。お金のかからない勉強できる場所がほしい。

・5歳児健診の必要性や普段からヤングケアラーの当事者と触れる機会があるため、そのことについて書いてみたいという意見をいただいた。その他に、自分のお子さんに発達の課題があるという意味合いで、お子さんの未来や現在についての内容。また自身も今後仕事に復帰したいという思いがあるため、ワーク・ライフ・バランスについての内容。さらに、タブレットを使った学習が普及していることについて、親としてタブレット学習に疑問を感じる部分もあるため、そのような内容のコラムを書きたいという意見もあった。

### 【グループ3】

・7つの施策目標に関して、思っていることを書き出しながらワークを進めた。施策目標1では、子どもの意見表明や児童虐待相談体制の中で、子どもの相談窓口の案内をトイレに置くようになったことは良いことだが、子どもは電話よりLINEで相談できる体制があると良いという意見があった。

・施策目標2では、子育てということで、子どもがどこでつながれるか、子どもが安心して過ごせる場所をテーマに、子ども食堂などを紹介するコラムがあると良いという意見があった。また、困っている子どもとつながっている大人がそれぞれに点在しているが、連携が取れていないため、連携が取れるネットワークを行政が作ってくれたらと思うので、そんなコラムもあると良いという意見があった。

・施策目標3に関しては、放課後の居場所や学習支援について、そのような居場所を求めるコラムを書きたいという意見があった。また、最近では運動会の内容なども変わっているという話があり、コロナ禍を経て価値観が変わってきたというようなコラムもあると良いという意見があった。今の大人は自分たちが子どもの時にやったことが当たり前だと思っているが、時代の流れで変わってきているため、変化について紹介するコラムもあると面白い。

・施策目標4では、産前産後支援として、行政だと敷居が高いと感じる悩みを「いれたち」という民間団体では相談できる、という紹介コラムを書きたいという意見があった。

・施策目標5では、待機児童問題から派生し、学童に入れない子どもが課題となっているため、その課題を顕在化させるようなコラム。また、くるプレに関するコラムや学校施設の活用というところで各学校での好事例を紹介し、立川市の公立小中学校で実現させていけると良い、という話があった。

・施策目標6では、小学校には自閉症、情緒の特別支援学級があるが、中学校にはないという課題につい

て、そこで支援が止まることが懸念されるため、中学校でも支援級があると良いというコラムもあげられた。また、不登校児への対応が不十分と感ずるため、他自治体ではスクールソーシャルワーカーを拡充する取組があるので、そういうことを提案するコラムがあると面白いという意見があった。

#### 【グループ4】

・コラムをどのような感じで、みんなて書けると良いかということを最初に話し合った。今回のプランは数字が多いため、プランに血を通わせられるようなコラムを書けると良いということで、各委員が様々な活動を行ったり、子どもに関わったりしているため、そんな目線で書けると良いという話になった。

・書き方として、1個のテーマに複数のコラムを書いても面白いという意見があった。意見交換中で特にキーワードとなったのは、居場所。それぞれ居場所が違うため、若い世代や子ども世代はどんなところを居場所と感ずるのか話題になり、それぞれが感ずる居場所についてコラムを書けると面白いという話になった。

・図書館や公園等の公共施設の居場所について、子どものために作られた施設も大人が喫煙等で邪魔をすることがあり、そういうところをもっとよくできると良い、という話もあった。また、子どもだけでなく、地域食堂や誰でも集まれる地域の居場所、公共支援では難しい夜の居場所についてもテーマとして面白いという意見があった。

・地域のテーマとして、子ども会に加入する子どもが減っていたり、PTAがなくなったりすることは、グループ4では課題意識を持っていて、そこに今後何かしら取り組めると良い、という意見もあった。また、このプランでは行政と市民が協働することを掲げているが、協働とはどういうことかをもう一度見つめ直したいという話があった。

・立川市では不登校が増加しており、合同学校相談会を1回開催すると500人から600人が参加しているため、ここに対して何かしら連携できると良いという話があった。立川市主導の事業以外にも、地域で行っている子育ての取組は様々あるため、そういうものを紹介するコラムがあると良いという話もあった。それから、高校生や中学生も含め、地域の中でボランティア活動が少しずつ広がってきているため、ボランティアのところについても書けると良いという意見もあがっていた。

#### 4. その他

・チャイルドラインたちかわから、「チャイルドラインたちかわ20周年記念講演会 立川の未来をつくる子どもたちに私たちが今、できること」の案内、子どもの権利フォーラム開催の案内。

・定時制・通信制高校等合同学校相談会の開催報告。

・映画(「夢見る校長先生」)の上映会の開催の案内。

・次回、推進会議 11月13日を予定。

以上